

派遣後の活動



▲令和元年 12 月 1 日（日）「平和の集い」を終えて @けやきプラザふれあいホール

■ 被爆 74 周年我孫子市平和祈念式典

令和元年 8 月 18 日 (日)



布佐中・五定舞桜さん

派遣後、8月18日に行われた我孫子市平和祈念式典に参加しました。

私たちは派遣中学生として紹介され、長崎での活動報告を行いました。また、参加者皆さんの先導として我孫子市の平和都市宣言を読み上げました。

私たち派遣団を含め、多くの参列者が記念碑に献花を行いました。

私たちが3日間の長崎派遣を通して知った、戦争や原爆の恐ろしさ、平和の尊さを、これからたくさんの人たちに伝えていかなくてはならないと、強く感じました。



■ 我孫子市平和祈念式典について

我孫子市原爆被爆者の会との共催により、被爆 74 周年平和祈念式典を開催しました。式典には、約 110 名の方が参列し、原爆犠牲者に哀悼の意を捧げるとともに、核兵器廃絶と平和を祈りました。

原爆の恐ろしさや悲惨さ、平和の尊さを次の世代に伝えていくため、市では若い世代にも平和事業に携わってもらう工夫をしています。その一環として、令和元年度の平和祈念式典においても、司会進行や原爆詩の朗読を、高校生や大学生が行いました。



■式典のスケジュール

令和元年 8 月 18 日（日） 9 時 30 分から

手賀沼公園「平和の記念碑」前にて

<司会進行> 平和事業推進市民会議委員

肥後 智彦、鈴木 美紗稀

時 間	内 容
9 : 3 0	開式
9 : 3 2	参列者全員による黙とう
9 : 3 5	詩の朗読 「原爆の思い出」「燈籠ながし」 <朗読者> 平成 29 年度広島派遣中学生 高須 万悠香
9 : 4 0	式辞 主催者/我孫子市原爆被爆者の会 副会長 的山 ケイ子 主催者/我孫子市長 星野 順一郎
9 : 5 0	献花（代表者、派遣中学生）
1 0 : 0 0	千羽鶴の奉納 長崎派遣中学生 副団長 布佐中学校 五定 舞桜
1 0 : 0 5	ごあいさつ 来賓/我孫子市議会議長 椎名 幸雄 来賓/千葉県議会議員 今井 勝 来賓/千葉県議会議員 水野 友貴 紹介 我孫子市議会副議長 豊島 庸市 我孫子市副市長 青木 章 我孫子市教育長 倉部 俊治
1 0 : 1 5	長崎派遣中学生の紹介、報告 ・派遣団 12 名の紹介 ・団長あいさつ、報告 布佐中学校 鈴木 友瀬
1 0 : 2 5	我孫子市平和都市宣言の読み上げ （派遣中学生による発声後、参列者全員で）
1 0 : 3 0	献花（参列者）
1 0 : 3 5	閉式

■ 我孫子市原爆被爆者の会 式辞

我孫子市原爆被爆者の会の的山です。

病氣療養中の会長 宮田将則に代わり、ご挨拶申し上げます。

私は、8月8日から、ここに居る派遣中学生の皆さんと長崎に行ってきました。その体験から、猛暑の中、多くの予算をかけ、被爆地まで出かけることの重要性を痛感しました。

それは、第1日目の青少年ピースフォーラムで、92歳の被爆者、築城^{ついき} 昭平^{しょうへい}さんの被爆体験講話。第2日目の平和祈念式典での、被爆者代表 85歳^{やまわき}の山脇^{やまわき}佳朗^{よしろう}さんの平和への誓いを聞いたことです。この2人の方々の被爆体験の話は、私が今までに聞いたことのないすごいものでした。きっと、つらい思いを乗り越えて話されていたのでしょう。

ところが、夕方のテレビ放送では、安倍総理大臣の挨拶は報道されても、被爆者の話は報道されていません。2人の方々の貴重な話は、会場にいた者だけが聞くことができたのです。

また、今回の長崎派遣では、74年前の8月9日、長崎のその場にいた者。つまり、被爆者の私自身が道案内をすることができたことです。その道は、私の小学生の頃の通学路です。また、その道は、黒焦げの大やけどを負いながらも、小高い山を越えて被爆者が、爆心地から逃げてきた道でもあります。私の小学校の校庭は、亡くなられた方々の遺体の焼き場だったと、母から聞きました。私は、「えー、その上で運動会をやったのにー」と悲鳴をあげました。

被爆者の高齢化が進む中、次世代を担う派遣中学生に、被爆者自身が被爆地を案内することができ、大変ありがたいことと思いました。

この夏、このような素晴らしい体験をすることができました。

我孫子市の平和事業、被爆地への中学生派遣事業を大変ありがたく思います。

猛暑の長崎、坂と階段の街長崎です。9月で74歳になる私は、急な階段を上がる時は、いつもビリでした。でも、体力づくりを心がけ、これからも若い皆さんと被爆地を訪れることができるよう、頑張りたいと思います。

暑い中、平和祈念式典への参列、ありがとうございました。

■ 我孫子市長 式辞

本日は、被爆 74 周年平和祈念式典に際し、ご来賓各位並びに我孫子市原爆被爆者の会の皆様のご臨席と、多くの市民の方々にご参列を賜り、厚く御礼申し上げます。

広島と長崎に原子爆弾が投下されたあの忌まわしい日から 74 年目を迎えました。

原子爆弾は、一瞬のうちに多くの尊い生命を奪っただけでなく、辛うじて一命をとりとめた人々にも、心身共に生涯消えることのない深い傷を残しました。

原爆並びに先の大戦で犠牲となられた御霊に対し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今年、15 回目となる広島・長崎への中学生派遣では、市内 6 校の代表生徒 12 名とともに、8 月 8 日から 10 日まで長崎市を訪問し、平和祈念式典に参列して参りました。

当時の悲惨な記憶と記録を後世へ伝承していくことがより一層必要であること、また、同じ過ちを繰り返さないことが大切であることを、改めて強く思いました。

また、これまでに派遣された中学生が行う「リレー講座」も 5 年目となりました。

派遣された中学生たちが見聞きし、感じたことを、さらに若い世代へ伝えるこの取り組みを始め、様々な取り組みをとおして、我孫子市の平和への思いは、若い世代へと着実に受け継がれています。

唯一の被爆国として、また、平和都市宣言をしている自治体として、核兵器のない世界が実現されることを強く願い、今後も、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて、一步でも前進するよう、多くの人々と連携の輪を広げていくことに、全力を尽くして参ります。

結びに、日頃から市の平和事業にご尽力いただいております我孫子市原爆被爆者の会の皆様方のご努力に感謝申し上げますとともに、本日、ここにご臨席の皆様方のますますのご健勝を心からご祈念申し上げまして、式辞といたします。

令和元年 8 月 18 日

我孫子市長 星野 順一郎

■手賀沼とうろう流し

平和祈念式典の終了後、式典参列者や派遣中学生ら約 70 名が参加し、それぞれの「平和」への思いを込めた灯ろうを作製しました。



灯ろうに込めた平和への思い・願い



「大切な家族・友人といつまでも幸せにいられるように」
我孫子中学校 稲見帆夏



「平和」
我孫子中学校 岡 智希



「笑顔☺」
布佐中学校 鈴木友瀬



「平和な世界」
布佐中学校 五定舞桜



「これからもずっと家族と友人と
仲良く平和にいられますように」
湖北台中学校 飯田愛菜



「平和」
湖北台中学校 齋藤向太



「世界中の人々が共に
生きていける世界に」
湖北中学校 佐藤皓介



「笑顔で幸せにすぎず」
湖北中学校 岡島舞衣香



「笑顔であふれる世界」
久寺家中学校 工藤心陽



「世界中の人々が明日への
希望を持ち、いつも笑顔で過
ごせますように」
久寺家中学校 山田叶真



「笑いが絶えない世界を」
白山中学校 本田拓海



「安心して学校に通える世界」
白山中学校 市川みなみ

派遣団がそれぞれの思いを込めて作った灯ろうは、夕暮れの手賀沼に自分たちの手で流し、市民の方々とともに、平和を願いました。



■「広島・長崎派遣中学生リレー講座～未来を生きる子どもたちへ～」



並木小学校 (R1.9.28) ▶



我孫子中・稲見帆夏さん

夏の長崎派遣から帰ってきた2学期から、私たちは「広島・長崎派遣中学生リレー講座」に参加しています。

このリレー講座は、平成27年、戦後70年平和事業としてスタートしたもので、私たちより先に、これまでに広島や長崎に派遣され、現在は高校生や大学生となっている歴代の派遣中学生の先輩達が市内の全小学校の6年生の児童の皆さんに平和をテーマにした授業をするものです。

私は並木小、湖北台西小、高野山小のリレー講座に参加させていただきました。最初は“伝える”という立場としてとても緊張しましたが、小学生の皆さんがすごく熱心に考え、興味を持って取り組んでくれたので次第に緊張もほぐれました。私自身も小学生の時にリレー講座を受けていたので、“受け継ぐ”ということも体感することができました。



▲高野山小学校 (R1.10.1)



我孫子中・岡智希さん

僕は高野山小学校のリレー講座に参加しました。小学生の皆さんは一生懸命話を聞いてくれました。また平和のために何ができるのかを一人一人が積極的に考え、意見を出してくれました。伝えることは難しかったですが、これからも伝えることを続けていこうと思いました。



▲湖北台西小学校（R1.9.28）



布佐中・五定舞桜さん

私は布佐南小学校と湖北台西小学校のリレー講座に参加しました。小学生の皆さんと一緒に平和とは何か、これからの平和に向けて自分達は何が出来るかを考えました。

多くの考えや感性を持っている小学生の皆さんは、原爆や平和について真剣に考え、興味を持つ人も多くいました。

このリレー講座を通して私は、今の平和や戦争について次の世代に受け継いでいくのは私たちだと深く感じ、私自身も良い経験になりました。



▲新木小学校 (R1.11.16)



湖北中・佐藤皓介さん

僕は、新木小学校のリレー講座にアシスタントとして参加し、「平和」について小学生と真剣に考えました。

講師の話を聴いていた小学生は、戦争は二度と繰り返してはいけない、と思っている一方、それは過去の話で実感があまり湧かない、といった様子でした。

このことから、一人でも多くの人に実感が湧き、関心を持ってもらえるように、長崎で学んできた戦争の恐ろしさをこれからも伝えていかなければいけないと、強く思いました。



▲布佐小学校 (R1.10.26)



白山中・市川みなみさん

私は二小・布佐小・新木小のリレー講座に参加させていただきました。

たくさんの学校やクラスを回っていると、「平和とは」という 1 つの質問でも、ゲームができること、赤ちゃんを抱っこできること、など、人それぞれ違う意見があり、私も平和についての考えの幅が広がりました。

また、講師の方によって、平和や原爆について、言葉だけでなく、歌で伝えている方もいらっしゃったので、私も授業に参加していて、新しいことを知ることが出来ました。これからも平和について考え、たくさんの人に発信していきたいと思います。



▲第一小学校 (R1.6.22)



▲第三小学校 (R1.6.29)



▲湖北台東小学校 (R1.7.12)



▲根戸小学校 (R1.7.12)



▲布佐南小学校 (R1.9.28)



▲第四小学校 (R1.10.19)



▲第二小学校 (R1.11.21)



▲湖北小学校 (R2.2.3)



しかし、核兵器が人間の手でつくられたものである限り、人間の手によってそれを縮小し廃絶することができないはずがありません。

この世界から戦争、核兵器をなくすために、私たちも何ができるのかを考え、行動に移していきます。

■ 平和の集い～我孫子から平和を願う～

令和元年 12 月 1 日（日）

12 月 1 日（日）に、けやきプラザ2階 ふれあいホールで「平和の集い～我孫子から平和を願う～」を開催しました。約 300 人が来場し、中学生による派遣報告などに耳を傾けました。市と我孫子市平和事業推進市民会議の共催事業で、市民会議委員の大学生と高校生が司会を務めました。

＜司 会＞ 我孫子市平和事業推進市民会議委員

大兼 夏美（令和元年度長崎派遣引率）

早坂 弘宇（平成 28 年度長崎派遣中学生）



第 1 部 長崎派遣中学生による報告

令和元年 8 月に長崎市に派遣した中学生 12 名が、現地で学び感じたこと、平和について考えたことなどを発表しました。派遣報告の最後は、中学校ごとの「平和宣言」で締めくくられ、中学生たちは自分の言葉で平和への思いを語りました。





第2部 モノオペラ「焼き場に立つ少年」

被爆後の長崎で撮影された「焼き場に立つ少年」の写真を題材にしたモノオペラを上演しました。少年の心情を歌ったモノオペラは、観る人の心に戦争や原爆の悲惨さを強く訴えかけました。

<出演> 岡本 静子 さん <ピアノ演奏> 西元 真澄 さん



第3部 我孫子中学校演劇部「消えた八月」

戦争がもたらした深い悲しみを抱えた夫婦と、戦争について学ぼうとする現代の中学生とのふれあいを描いた物語を、我孫子中学校演劇部員 19 名が演じました。

同校演劇部は、市内公立中学校唯一の演劇部として、平成 25 年から 7 年間に渡って「平和の集い」に出演し、戦争や原爆の恐ろしさ、平和の尊さを伝えてきました。平和事業への貢献に対して、演劇終了後、教育長から感謝状が送られました。

<あらすじ>

夏休みの自由研究で「戦争体験者に聞く、第二次世界大戦の実態」をテーマにした中学生たち。8月の暑い日、戦争体験者の老夫婦に話を聞きに行くが、追い返されてしまう。ふと家の中に目をやると、なぜかカレンダーは9月になっている。夫婦が戦争のことを話したがらないのはなぜなのか。



「平和の集い～我孫子から平和を願う～」展

11月20日（水）から12月1日（日）まで、けやきプラザ2階の第1・2ギャラリーに「広島・長崎派遣中学生リレー講座」の紹介、長崎原爆資料館から借用した写真パネルを展示しました。また、アビシルベでは長崎派遣中学生の感想文や、市の平和事業の取組みを紹介する展示を行いました。



▲けやきプラザ 第1ギャラリーの展示の様子



▲けやきプラザ 第2ギャラリーの展示の様子

▲アビシルベの展示の様子



私たちの平和宣言



▲手賀沼公園にある「平和の記念碑」、「平和の灯」、「陽光桜」



「平和の灯」の傍に「陽光桜」を植樹する
我孫子市原爆被爆者の会の皆さん（2016（H28）.1.15）



誰が何のために、なぜ、広島・長崎に原爆は投下されなければならなかったのか。

1945年8月9日、突然、「ピカドン」という音とともに、いつもと変わらずに生活するはずの多くの命が奪われました。

そんな人々の生活を一瞬にして奪った“原爆投下”これは二度と繰り返してはいけません。

そのために私たちが出来ること。それは“知る”ということです。あの日、あの時、何があったのか。原爆・戦争そのものについて知り、その上で何がいけなかったのか、平和に過ごすためにはどうしたら良いのかなどたくさん考えなければなりません。

実際に被爆地へと足を運んだからこそ知れたことを、これからみなさんに伝えていきます。

そして今の“平和”な生活が続くことを強く願い活動していきます。

令和元年度長崎派遣中学生

我孫子中学校 2年 岡 智希、稲見 帆夏



私たちは、派遣中学生の一員として、長崎に滞在した三日間で大切なことをたくさん学び、考えることができました。その中でも心に一番強く残ったのは、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さ、そして平和の大切さです。

今、世界では、核兵器を保有し、開発を行っている国々があります。現在の世界の技術力を考えると、長崎に原爆が投下された当時よりもっと莫大な被害をもたらすものが作られていることは間違いありません。核兵器や戦争は、良いことを一つも生み出すことはありません。悲惨な戦争を二度と繰り返してはいけない、核兵器を決して使ってはいけないという声を、この先も絶やさずに伝えていくことが大切だと強く感じました。

また、このことを自分だけで伝えていくのではなく、一人でも多くの人に語り続けられるよう、この機会をいただいた私たちが先頭に立って、戦争、原爆の恐ろしさ、平和の大切さを伝えていけるように力を尽くしていきたいと思えます。

令和元年度長崎派遣中学生

湖北中学校 2年 佐藤 皓介、岡島 舞衣香



私たちは長崎派遣団として、長崎平和祈念式典への参列や、原爆資料館の見学、青少年ピースフォーラムを通して戦争の悲惨さや平和の尊さを肌で感じました。

私たちは、今の平和な日常を当たり前のものだと思わずに、戦争で犠牲になった人たちへの感謝の気持ちを忘れずに1日1日を大切に過ごしていきたいと思います。

また、現在の平和な日本を維持していくために私たちができることは、この想いを大人になっても決して忘れないこと、そして長崎派遣団として学んだことを自分が親の世代になった時、自分の子どもや次の世代の人に、しっかりと伝えていきます。

私たちは、世界に存在している核兵器がゼロになり、世界中の人が笑顔で幸せになると信じています。

令和元年度長崎派遣中学生

布佐中学校 2年 鈴木 友瀬、五定 舞桜



私たちは今回の長崎派遣での様々な経験を通して、戦争や原爆がもたらした悲劇や平和の尊さを学びました。

そして、今の当たり前な生活が幸せであり、大切にしていかななくてはならないことだと改めて感じました。

まだ世界には、核兵器がたくさんあります。再び核兵器による悲劇を繰り返されないように、私たちは『核兵器は必要ない！』と声をあげて行く必要があります。

私たちは、ひとりでも多くの人の考え方が変わっていき、核兵器が世界から無くなり、平和な世界になることを願います。

そして、私たちから原爆の恐ろしさ、平和の尊さを伝え、未来に受け継いでいくことを宣言します。

令和元年度長崎派遣中学生

湖北台中学校 2年 齋藤 向太、飯田 愛菜



「私たち一人一人の力は、微力ではあっても、決して無力ではないのです。」

この言葉は、長崎市長が平和祈念式典で世界中の人々に訴えた言葉です。

今、世界を平和にしようと思い、活動できている人はどれだけいるのでしょうか。果たして、それらの活動は意味のあるものになっているのでしょうか。

私たちは、この長崎派遣を通して、平和についての概念が変わりました。今まで、私たちが考えていた平和は戦争のないことや、核兵器がなくなることでしたが、自分たちの生活の中にも一つ一つ平和があり、その積み重ねで私たちは生きることができているのだと知りました。

そして、人それぞれが持つ平和の考えを全員が分かち合うことで、身の回りにある平和を作り続け、世界中が平和であふれるような世の中を作ります。

令和元年度長崎派遣中学生

久寺家中学校 2年 山田 叶真、工藤 心陽



私たちは、今年の夏、我孫子市長崎派遣団として、長崎に行って実際に被害を受けた建物や人々の資料を見たり、被爆者の方のお話を聞いたりして、原爆の恐ろしさや平和の大切さを改めて学ぶことができました。

平和について考える機会も増え、「当たり前なことを当たり前でできる環境が平和」だと思っていましたが、世界には未だ、原子爆弾を持っている国があったり、学校に通うことのできない子供たちがいたり、平和であるとは言い切れません。

だからこそ、長崎派遣を通して学んだことを、平和の集いや小学校のリレー講座等の中でたくさんの人に伝え、一人でも多くの方が平和について考えられることが平和への道だと思います。

私たちは、これからも平和について考え、高校生や大学生になってもリレー講座などの平和事業へ、積極的に参加していきます。

令和元年度長崎派遣中学生

白山中学校 2年 本田 拓海、市川 みなみ